

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200074		
法人名	社会福祉法人 伯医会		
事業所名	ふるさと母里 ひかりユニット		
所在地	島根県安来市伯太町東母里482番地2		
自己評価作成日	平成30年3月29日	評価結果市町村受理日	平成30年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成30年4月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人は色々なものを背負って生きています。仕事や責任、炊事や子育てなど。それを加齢とともに少しずつ若い者に託して無くなっていく。当然のことではあるが、その背負っているものがあるからこそ人は頑張って生きれるのではないのでしょうか。
ご利用者を巻き込んだ支援、意欲的に行動を起こせるような引き出し力、他者から必要とされ、存在意義を実感する。そんな気持ちを事業所でも味わっていただき、活動的に生きていく。それが人の尊厳を守るという事でもあり、自立支援だと考えます。
そのような考えで、日々の支援を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4年前に小規模と1つ目のグループホームがスタートし、1年後にもう1つのグループホームが加わり2ユニットになっている。小規模の建物に続き、2つのグループホームは左右対称になっており、間を区切らないことで広く開放感がある。いつでも双方を行きでき、利用者同志の交流も多く、そのことが精神面の良い刺激にも繋がっているように見受けられる。全員一緒に何かするのではなく、1人1人の思いを引き出すことに努め、したいこと、してあげたいこと等を書きだし、その内容を職員全員が意識して行動に移すといった、個別支援の充実に積極的に取り組んでいる。できるだけこの地域で最後まで見守りたいという郷土愛が強く、山間の小さな集落に向いて介護予防のサロン開催を手掛けるなど、地域密着型のサービス事業者としての関わりは評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を覚えている職員もいれば、そうでない職員もいる。理念に基づいてフロアマネージャーの指示の元業務を行っている。	法人の理念を基にグループホームの理念を作成している。考え方を職員会議で話しているが、日常はそれぞれのユニットのリーダーを中心に話し合いの機会を持ち共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事で、しめ縄、餅つき、笹巻、母里フェス、は地域の方達と行っている。自治会に加入している。	お祭りなどの地域での行事に参加したり、地元自治会と共同で夏場にフェスティバルを開催しており、出店を出したりボランティアとの交流も盛んに行われている。小中学生の職場体験や学生のサマーボランティアや介護相談員事業も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	意図的に啓発活動や地域貢献活動を行ってはいないが、地域の行事やイベントに積極的に出向くことで、認知症の方の生活の豊かさや、能力の高さを知ってもらう機会としている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回の運営推進会議で事業所の取り組み内容を報告し、意見交換も行っている。	小規模と合同で定期に開催。家族の参加は少ないが、地域からは自治会長、センター長、民生委員、協力医の他に介護保険課、包括からの参加を得て開催している。施設の運営状況、行事等の様子を伝えることで、意見交換に繋げている。	運営推進会議の意義を高めるためにも、家族関係者の参加が増えるように検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼したり、運営上で疑問に思う事や相談などを保険者や包括と行っている	市の介護保険課、包括からは毎回推進会議への参加があり、助言を受けたり介護保険関連のことについて問い合わせたりいい関係が築けている。生活保護利用者もあり担当課とは情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇研修で勉強し理解した上で実施している。	昨年夜間に外に出た方があったことから、鍵を替えたりしているが、日中は施錠せず出入りは自由になっている。法人内での研修に参加することで拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会の研修で勉強し、普段から意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会の研修で勉強している。必要があれば提案出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が説明を行い、事業所で出来る範囲、退去の条件等の重要なポイントは特に丁寧に説明するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員による訪問を行い、ご利用者の意見の聴取、ご家族に対しては相談、苦情窓口の情報を契約時には説明し、毎月の配布物でも意見の聴取を呼び掛けている。	ふるさと母里として行事の様子等を伝える便りを出したり、毎月担当より日頃の様子を写真入りで送って意見を得るようにしたり、介護相談事業では毎月1回2名の相談員の訪問を受け、利用者の思いを聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	労働者の代表が代表者や管理者に、意見や提案が言えるようシステムになっている。また、全職員と年間2回の個人面談も実施している。	中間期と年度末の年2回個人面談の機会を持ち、意見を聞くようにしているが、普段は各ユニットのリーダーが中心となり月に1回チーム会を行い、全員で意見を出し合い、管理者へ繋ぐようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の経営状況や世間の動向を踏まえて職場環境の改善についても話し合うような会議を代表者と管理者が毎月開催している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームリーダーと人材育成について情報共有しながら、OJTの実施、事業所の内部・外部研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同種別の他事業所に実習という形で現場見学に行かせてもらった。今後も関係を保っていきたいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの内容は早期にメンバーで情報共有し、入居後は担当職員を中心に、信頼関係が築けるように関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個人記録に家族からの要望があれば、言われたことを記入し改善が必要であれば、毎日のミーティングで話し合い問題解決に向けて取り組みを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立度が高い利用者様は、他のサービス利用も含めた対応を行っている最中。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かをする前に、ご利用者様へ提案してやる気、意欲を引き出してから物事に取り組んで行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時にご利用者様の最近の様子を伝えたり、ご家族様と支援で外出の予定を立てて行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡調整して実施している。馴染の美容室利用など。	地域のイベントに参加して馴染みの人に会ったり、病院に友人のお見舞いに行く機会を作ったりしている。行きつけの美容院へは送迎を行い関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が目的をもって外出したり、炊事、洗濯、レクリエーション、日々の生活を共に行う事でお互いに関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も事業所側から継続的にご家族等に対して相談援助や支援は行っていない。 「またいつでもお気軽に顔を見せに来てくださいね」とお話しはしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の会話より利用者様の意見を聞いて、その日に実施出来る様、目標を立てて実践している。	日頃の生活の中で思いを聞きながら、行きたい所やしたいこと、してあげたいこと等を上げて支援に繋げている。ホワイトボードに個々の希望を書き上げ、職員全員が意識して動くよう努めている。	思いの把握に努めることで、個別支援の充実に繋げていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを作成し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜、モニタリングとケアプランを作成している。	家族関係者には面会時等に担当者会議を開催し、介護計画の原案作成に意見を得ている。入院などで重度化した場合は状況に合わせて計画の変更を行い現状に即したものになるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、詳しくプラン内容が記載されており、実施内容、評価を書くようにしている。次の支援に繋がるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、チームで話し合いながら柔軟に対応したり、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの方に合った地域資源を模索している。現在南部町のグランドゴルフ、伯太のグランドゴルフに加入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的を受診・訪問診療をしている。提携病院がある。	施設としてかかりつけ医を確保しており、夜間や緊急時の対応も可能になっている。入所時に往診可能なかかりつけ医を紹介し移行したり、家族対応で以前のかかりつけ医を継続することも可能。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や外傷がある時には、看護師、かかりつけ医に気軽に電話連絡して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会へ行ったり、電話で密に情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年の秋に初めて看取りを行う。ターミナルを迎える方には、「明日はない」と考えて、今日できることを本人様・家族様と話をしながら悔いが残らないように支援を行った。	開所して年数が浅い為昨年初めて1件の看取りを行っている。経験のない職員も居た為、不安な所を聞きだしたり意識統一を行うことで対応している。今後も本人や家族の希望があれば、ここでできる範囲で対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル(夜間)がある。救命救急の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災、想定避難訓練を行っている。水害に関しては、注意報が出たら正規職員は、職場に集合して各自役割が決まっている。自治会との連携を図っているので災害時には、協力体制が整っている。	昨年近くの川が危険水位を超えた為、全員で避難場所への避難を経験。職員集合の判断や連絡網を使つての連絡方法等、この度の反省を生かし今後の訓練に繋げることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しながら、その時々の様子を伺いながら納得した上で対応している。	法人全体で講師を招き接遇研修を実施したり、年に数回は福祉全般の研修の際も取り上げている。日頃の関わりの中で馴れ合いになっているような場面もあるが、チーム全体のこととして考え対応することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、思い、希望は叶えられるように専用のノートへ記載し支援に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の時点で利用者様の意向を聞いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望がある方は本人様に聞きながらお化粧品やおしゃれなアクセサリーをつけて頂いている。行事の際には、普段はされない方にも意向を聞いて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様と一緒に作り、片づけも行っている。自由献立の日があり食べたい物が献立に反映されている。	栄養士が献立を作成しているが、月の中で一定期間だけは希望を聞いての自由献立としている。2つのユニットで副食を分けて作ったり、1つのユニットが担当したり、その日により違うが、できる作業は職員と一緒に行うことで食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医からの指示をもらい、参考にしながら提供している。食事摂取量や必要に応じて水分摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に応じた口腔ケアを行なっているが、毎食後、必ず全員の方にできているわけではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて定期的に声掛けを行ったり排尿を促すなどをし、自立して支援が行えるように努めている。	排泄時の声掛けが必要な方が多いが、できるだけトイレに座って排泄するように促している。排便はなるべく薬に頼らず、ヨーグルトやジュースを作り自然な形で排泄ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ミックスジュースを提供することで快便に繋がっている。中には、効きすぎる方もいるので、そういう方には、調整しながら飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意向を聞いて、個々に浴った支援をしている。	週に2、3回、多い人は2日に1回の人もある。自立の方は見守り対応で、毎日入浴も可能。小規模と同じ浴室を利用しているが、機械浴もあり重度の対応も可能。入浴が嫌いな方の場合は声掛けを工夫したり、清拭し保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のリズムに合わせた生活をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示の元服薬を行なっている為、職員が症状の変化の確認は行っているが、薬の目的や副作用に関しては看護師が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事係が、季節に応じて楽しみを企画して実行している。担当が一人一人に合わせた楽しみの提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事毎には、家族様に声掛けを行なっている。ご本人の希望を最優先にしてどこへでも外出します。	敷地内の散歩は自由で畑に出る人もある。近所のコンビニやスーパーの買い物は希望に合わせて出かけるようにしている。春と秋には桜見物や紅葉狩りなど、季節を感じられるよう外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や、買い物の時には、自分のお小遣いで支払をしてもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような空間作りと、不快や混乱がないように配慮している。	2つのグループホームが左右対称に建っており、仕切りなく開け放っているため奥行きがあり天井も高いため解放感がある。庭には椿などの木が植わっていたり、裏は山なので常時自然を感じることができるし、明るすぎず落ち着いた雰囲気がある。窓も掃出しで大きく外が良く見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所がーか所に集中するのではなく、思い思いに過ごせるように配置されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が自宅で使っていた物を持ってこられて設置している。	ベッドの方が多いが、畳を好み床に畳を敷いている人や、畳に炬燵を置き家での形を続けている人もある。写真や手芸作品を飾ったり1人でもくつろげるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこに何があるのか解るように表記してある。		